

北海道博物館協会
学芸職員部会ニュース

【 第 88 号 】

2017（平成 29）年 8 月 25 日 発行

平成 29 年度「学芸職員部会総会・研修会」を開催します！

平成 29 年 9 月 21 日・22 日に岩内町で研修会が開催されます。詳細は開催要項にあるとおりですが、ここでは少し見どころを紹介します。

初日は全体協議と技術研修の 2 本立てです。前半の全体協議は全員参加型で、小川原脩記念美術館元館長の矢吹俊男さんと木田金次郎美術館の岡部卓さんの話をお聞きします。個人顕彰型の美術館の豊富な経験をお聞きし、多くの学芸員が悩んでいるであろう一括資料の収集・活用・保存についての情報・技術共有を図ります。

後半は技術研修として 2 つのワークショップが設定されているので、お好きな方を選んで参加してもらいます。1 つは教育分野で、講師は西村計雄記念美術館の磯崎亜矢子さん。「作品を 3 倍活かす教育活動」と題して発表いただきます。もう 1 つは保存分野で、内藤表具工房（旭川市）の内藤英治さんを講師に招き、「裏打ちによる紙資料の強化と補修」と題した実践的な研修となっています。

2 日目は近隣の 4 つの博物館施設を見学します。岩内町は岩内町郷土館と荒井記念美術館、共和町は西村計雄記念美術館、泊村は鯉御殿とまり、と盛りだくさんな内容です。

今年は久々に技術研修が実施されます。日頃現場に立っらっしゃる会員みなさんが職場に帰った後、現場で活用しやすい技術が多く得られると思います。業務多忙な時期だとは思いますが、道内各地の様々な分野の学芸員が多く参加するこの研修会、情報交換なども含めきっと会員みなさんにとって参加して良かったと思える研修会です。奮ってご参加ください！

（研修内容の詳細と申込書は開催要項を参照願います。）

【研修会の申込方法】 まだ間に合いますよ！

締 切：9 月 4 日（月）

申込先：開催要項にある申込書を下記までご提出ください。

郵送・FAX・E-mail、どれでも OK！

〒045-0003 岩内郡岩内町字万代 51-3 木田金次郎美術館

担当：岡部 卓 FAX：0135-63-2288

E-mail：kidabi1@khaki.plala.or.jp

* 総会に出席できない方は委任状をお忘れなく！

北のミュージアム紀行 ～その4～

北のミュージアム紀行は、北海道内で近年リニューアルされた博物館またはリニューアル予定の博物館をご紹介します。

第4弾となる今回は、「サケのふるさと千歳水族館」のリニューアルをご紹介します。学芸員の想いと様々な工夫が詰まったリニューアル、記事をお読みになった後は是非見学に行ってみてください！

千歳水族館リニューアルオープン

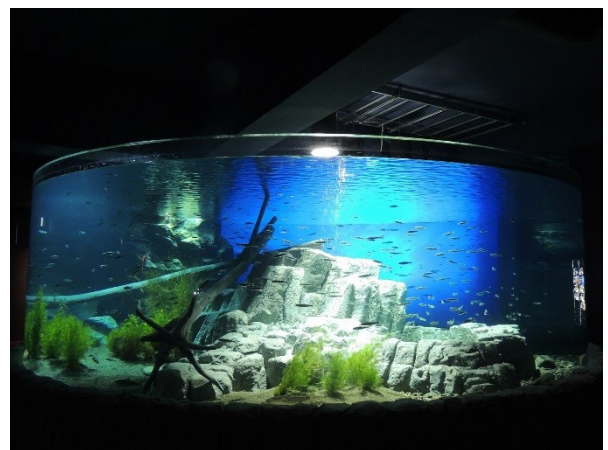
サケのふるさと千歳水族館 菊池 基弘 氏

1994年9月、サケの遡上とインディアン水車で有名な千歳川のほとりに、「サケと千歳川をシンボルとした淡水生物の水族館」としてオープンした「千歳サケのふるさと館」は、開館21年目にして初めて大規模な改修工事を行い、2015年7月25日、館名も新たに「サケのふるさと千歳水族館」としてリニューアルオープンいたしました。

今回のリニューアルでは、まず館名の変更に取り組みました。慣れ親しんだ名前を変えることには迷いもありましたが、開館して20年経っても来館されたお客様から「ここ、水族館みたいだね」という声が度々聞こえ、改名に踏み切りました。旧館名決定時に公募で採用させていただいた「サケのふるさと」は残しつつ、物産館や資料館のイメージを払拭すべくシンプルに「千歳水族館」としました。

またサケをテーマとした水族館として、これまで「地味で色鮮やかさが無い」、「サケの季節（秋）のみの施設」などといわれ続けていたため、リニューアルテーマとして新たに「清流と緑の癒やし空間」を設定しました。輝くような水の透明感や青さ、そこに差し込む光のゆらぎ、また水草などの植物の緑といった、淡水域にもある色鮮やかさ、美しさといったものを水槽内に再現し、季節にかかわらず、大人も子どもも神秘的な水中世界を楽しんでいただけるような展示を心がけました。その象徴ともいえる水槽が、本リニューアルの目玉ともなっている支笏湖大水槽です。

導入部に高さ5mほどの「苔の洞門」のジオラマを製作し、洞門を抜けた先に「支笏湖ブルー」とも称される水の碧さを再現した総水量約80トン、直径7.2mの円筒型をした支笏湖大水槽が現れます。この水槽では、潜水撮影した実際の支笏湖の水中動画を水槽背面に投影しています。つまり、本物の支笏湖ブルーの水中を背景に、水槽内の魚たちをご覧いただけるようになっています。他にも湖内の水中景観を象徴する柱状節理や巨大な倒木を配し、清流の象徴ともいえるバイカモなど水草の緑の群落を再現。水槽内ではヒメマスやニジマスの群れが銀鱗をきらめかせながら泳ぎ、ハゼの仲間は岩場や倒木に吸い付きながら見え隠れし、水草の間には当館飼育歴24年になる最長老のギンブナがゆったりと泳ぎ、物陰にはブラントラウトやアメマスが潜むなど、魚たちも本当に支笏湖にいるがごとく、思い思いに気に入った環境を選んで生活しています。「色が無い」と揶揄されることもある日本産淡水魚の水槽に、思わず見入ってしまうような色彩表現とともに、



支笏湖ブルーが美しい新設の大水槽

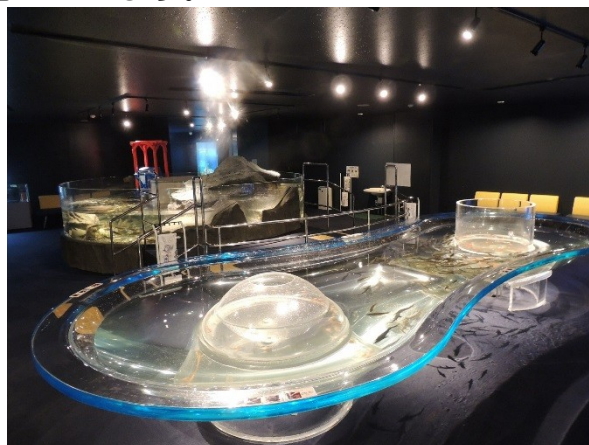
支笏湖ブルーが美しい新設の大水槽

生き物たちの魅力も引き出せたのではないかと考えています。

他にも、現在は当館とモナコ水族館でしか使用していない、全面透明アクリルでできた長さ約 5m のヒョウタン型タッチプールや、ミニチュアのインディアン水車が回る流水水槽などがある体験ゾーン、またガチャガチャによるエサやりや、サケ博士認定証がもらえる「サーモン Q&A」なども人気のコーナーです。世界各地の大型淡水魚の展示も新たにに加え、サケの仲間以外にも様々な淡水生物をご覧いただけるようになりました。以前は水槽とともに表示していたサケや生き物たちの解説は、水族館 2 階の「なるほど!?サーモンルーム」に集約し、お持ち帰りいただけるサケレシピの検索コーナーなども新設。より詳しく人とサケとの関わりを紹介しています。さらに今年度からは、水槽解説の充実のためパナソニック社の「LinkRay」というアプリと LED 照明を用いた「光 ID」により、お持ちいただいたスマートフォンやタブレットに情報提示するシステムも導入し、同時に多言語対応の改善も図っています。

もちろん、リニューアル前から当館の一番の特徴である、自然のままの川の中がのぞける「千歳川水中観察ゾーン」も健在です。さらにゆっくりご覧いただけるように、ベンチも増設し、お飲み物の自動販売機も設置いたしました。また、水中観察ゾーンに至るスロープには、今夏から「フロアマッピング」の映像上映を開始。床面に次々と現れるおおよそ 30 種類ほどの幻想的な映像は、水中世界へと誘う新たな人気スポットとなっています。

千歳川にはインディアン水車が設置され、いよいよサケの季節もこれからが本番です。今シーズンも、サケの季節ならではの様々な体験メニューをご用意し、ふるさとの千歳川に産卵のため戻ってくる多くのサケたちとともに、皆様のご来館をお待ちいたしております。



タッチプールとインディアン水車



水中観察窓から見るサケの群れ

求む！コラムリレー参加者 一ぜひ皆さんの協力を！

コラムリレーとは、学芸職員部会会員が部会のホームページで共通したテーマのもと記事を投稿する企画で、現在は第 4 弾の「地域の謎を解き明かせ！学芸員の研究ノート」が絶賛連載中です。現在の参加者は 29 名ですが、目標の約 50 名にはまだ達していません。道内の博物館・文化財を広く知ってもらえるこの企画に是非ご協力ください。

投稿してもらう内容は、前述したテーマに基づき「これまで調査研究してきたことを専門分野でない人に向けて、わかりやすく紹介してもらおう」ことです。具体的には、これまで書いた論文をわかりやすく噛み砕いたものや、調査したけれど論文にできずしまってい

るもの、展示のために調べたけれど展示で紹介できなかったもの、などです。難しく考えないでください。

参加したいと思った方は、担当の大谷さんにメールでお伝えください。現在申し込んだ方は、9月下旬以降の投稿時期となる予定です。なお、企画の統一感を出すために守っていただきたい体裁がいくつかありますが、主なものは下記の2点です。一般の方にも気軽に読んでもらえるための設定なので、ご確認の上、投稿をお願いします。

体裁①：投稿記事の文字数は1500字以内

体裁②：写真等画像は5枚まで

* 申込・連絡先 → 八雲町郷土資料館 大谷茂之さん s-oya@town.yakumo.lg.jp

これまでの投稿者・タイトル一覧を少し紹介するので、参考にしてください。

【コラムリレー第4弾の投稿一覧（第13回までの分）】

回数	投稿者	所属	投稿内容
第1回	大谷 茂之	八雲町郷土資料館	八雲の『熊大工』の素顔
第2回	志賀 健司	いしかり砂丘の風資料館	タコの「貝」の「寄生虫」
第3回	石井 淳平	厚沢部町	ヒノキの山の謎の穴ボコ
第4回	山谷 文人	利尻富士町教育委員会	利尻島に伝わった越中獅子舞のルーツをさぐる
第5回	斎藤 和範	北海道教育大学旭川校	道内から見つかる臭ビッキの謎-農業政策と流通革命?-
第6回	春木 晶子	北海道博物館	「夷酋列像」の「日月」「四神」
第7回	城坂 結実	美幌博物館	春の森で、マルハナバチの行動をウォッチング!
第8回	栗原 憲一	北海道博物館	北太平洋地域で最後まで生き残ったアンモナイト!?
第9回	小玉 愛子	苫小牧市美術博物館	ハスカップ 原野を飛び立った、初夏の果実
第10回	森岡 健治	沙流川歴史館	石斧に使用された「アオトラ石」
第11回	佐藤 卓司	小樽市総合博物館	廃線をあぐる
第12回	澤田 健	富良野市博物館	夕張山地のエゾナキウサギ
第13回	猪熊 樹人	根室市歴史と自然の資料館	考古資料と民族資料

☆ 編・集・後・記 ☆

少しでしたが岩内町での研修会内容を紹介しました。今回の記事をご覧いただき、少しでも多くの方が研修会に参加していただけることを願っております。また、リニューアルした博物館を紹介する「北のミュージアム紀行」も第4弾をご紹介します。どこの博物館も予算状況が厳しい時代だとは思いますが、リニューアルされる博物館が多いことに気づかされます。まだまだリニューアルしている博物館は多いと思いますので、情報をお持ちの方がいましたら、編集までご一報願います。

学芸職員部会の入会も随時受け付けております。会員の皆様の職場内や近隣市町村でまだ会員になっていない方がいれば、お誘いいたしますようよろしく願いいたします。

(入会申込案内 <http://www.hkma.jp/hkcurators-recruit>)

北海道博物館協会 学芸職員部会ニュース 第88号

発行日 2017年8月25日

編集 会田 理人(北海道博物館)・佐藤 一志(江別市郷土資料館)

林 勇介(湧別町ふるさと館 JRY・郷土館)

発行者 北海道博物館協会学芸職員部会

〒087-0032 北海道根室市花咲港 209 根室市歴史と自然の資料館 tel/fax 0153-25-3661

北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

学芸職員部会ホームページ <http://www.hk-curators.jp/>